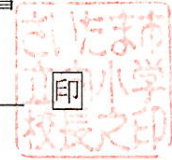


<様式 1 >

令和 2 年度 さいたま市立向小学校 自己評価書

校長 稲田正平



1 学校で設定した「令和 2 年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 新しいさいたま市の授業づくりを基に授業改善、指導方法の工夫に努め、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わえる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。－分かりやすい授業の状況
- (2) さいたま市の学校教育「推進の指針・指導の努力点」を基に、授業改善と指導方法の工夫に努め、運動の楽しさを味わわせるとともに健康で豊かな生活を送るための基盤となる食育の推進を図る。－児童の運動の状況、食育に関する授業の状況
- (3) 児童の安心安全の観点を踏まえ、いじめ・不登校ゼロを目指し、積極的で繊細な生徒指導、教育相談を組織的に展開する。  
－いじめの防止の状況、生徒指導及び教育相談の状況、安心安全の状況
- (4) 教職員の働き方改革への意識向上と在校時間の管理とともに、児童と向き合う時間の確保、及びワークライフバランスの充実を図る。－組織運営の状況

2 評価結果について

- ・児童、保護者から全 11 項目中、全ての項目で 95%以上の肯定的な回答が得られた。
- ・今年度はコロナ禍での学校生活で一斉休校や分散登校を経て通常登校になり、児童は感染への不安と例年よりも人間関係づくりに困難を感じていたようだ。しかし「学校は楽しい」「先生は相談にのってくれる」「先生はほめてくれる」などの項目で児童と保護者から 97%～99%の肯定的回答を得たことは、日頃から児童同士の関係性に気を配るとともにいじめの認知を積極的に行い早期対応と早期解決に努めたこと、登校しぶり傾向の長期欠席もゼロを維持していることは生徒指導と教育相談体制が組織的にも充実した結果であると考えている。
- ・学習指導や体力向上に関しては調査がなかった所以他との比較はできないが「授業はわかりやすい」で 98%～99%の肯定的回答を得ていることから一定の成果を挙げられたと捉え、今後も指導力の向上に努めたい。
- ・コロナ対応による消毒など新しい生活様式の徹底により教職員の負担軽減には課題が残った。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・コロナ対応の学校生活がいつまで続くか不透明であるが、学習指導の充実と児童が安心安全で明るく学校生活を送ることに全力を傾けたい。学習の動機づけ、見えない体力の向上、学級活動や道徳の授業の充実により、児童がお互いのよさを認め合い自己肯定感を高め非認知能力を高めることにポイントを絞って学校運営に取り組む。
- ・来年度はコミュニティスクール実施校として、保護者や地域の教育力をさらに学校に取り込んで協働して児童の育成に努めていきたい。そのために、学校運営協議会や PTA や SSN との協議を充実させ、児童の健全な育成に取り組んでいく。
- ・次年度も引き続き、教職員の時間外在校時間の削減に努める。

※ A 4 判 1 枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。